

「市原市子ども読書活動推進フォーラム2017」  
**第2部ビブリオバトル発表報告**

**1 『チーズはどこへ消えた?』 若葉中学校3年生・中村桃子 (なかむら ももこ)**

チーズがいつかなくなると知っているネズミといつまでもなくならないと思っている小人を主人公に、変化にどのように対応したらよいのかを示した本。クラス替えに直面して、前のクラスにいたいと願っていた中村さんは、その変化に適応できませんでした。しかし、「どんな変化や困難があっても、それも人生のスパイスと捉える強さも大切だとこの本から教えられました」と、ちから強く発表しました。ディスカッションで、小さな質問者にもやさしく分かり易く答えてくれる誠実な姿が、会場をなごませてくれました。



**2 『100回泣くこと』 若葉中学校3年生・龍愛弓 (りゅう あいみ)**

小学6年生の時に観た映画の原作。恋人とのありふれた幸せな時間を当たり前のように過ごしていた主人公は、恋人の死によって悲しみのどん底に。しかし主人公はその後のさまざまな経験を通じ、改めて恋人の優しさに気づきます。龍さんは、毎日、当たり前のように学校で会う友人も卒業したら会うことができなくなると不安に感じていました。でも、この本を読んで、「大切な人や大切な場所がいつまでもあると思ってはいけない。そして、今近くにいる人を思いやる気持ちを忘れてはいけないということ」を教えてもらいました」と発表しました。



**3 『名探偵シャーロック・ホームズ』 五井小学校4年生・小澤悠真 (おざわ ゆうしん)**

推理本が大好きな小澤君は、まず収録されている「まだらのひも」「六つのナポレオン」「ノーウッドの怪事件」3編の紹介をしました。なかでも「ノーウッドの怪事件」がお気に入りです。時間が余ってしまった小澤君は、急遽、ホームズとルパンのおじいさんの話をしました。今回唯一の小学生である小澤君、「ホームズ大好き！」が伝わってくる熱演でした。発表後のディスカッションで思わず「まだらのひも」の犯人を明かしてしまい、会場に笑いの渦が起きました。シリーズの本もたくさん読んでいる大の読書好きさんでした。



#### 4 『チョコレート・アンダーグラウンド』市原中学校2年生・黒田真友里 (くろだ まゆり)

チョコ好きの黒田さんはタイトルに惹かれてこの本を手に取りました。選挙に関心がない国で勝利した党が、‘チョコレート禁止法’という法律を発令。主人公たちは秘密組織を作り、このおかしな法律に戦いを挑みます。黒田さんはまず本の構成に着目し、章立てごとに今までの粗筋が示されていて内容が分かり易いことが魅力と語りました。本を読み終え「自由」について考えました。「チョコを他のものに置き換えて考えると、髪型等が制限されている国がある一方、日本は自分で決めることができているなと思いました。選挙の投票率がよくないことを聞き、皆もっと政治に関心を持ってほしいし、選挙権のない18歳未満の人にも読んでほしい本です」。



#### 5 『あしたも会えるのかな？ 群青 3.11 が結んだ絆の歌』

辰巳台中学校3年生・本間二葉 (ほんま ふたば)

被災者側からのメッセージソング「群青」に関わった人々へ取材したノンフィクション。本間さんのクラスは中学校最後の合唱コンクールで「群青」を歌うことになり、この歌の背景を知るために担任の先生が紹介してくれたのがこの本です。本間さんは「いままで、こんなに本気になって読んだ本はありませんでした」と語ります。一番印象に残ったのは「きっとまたあの町で会おう」という言葉。「ふるさとは今生きる<この町>ではなく、思い出に生きる<あの町>なのです」。「わたしたちは当たり前が幸せだということを忘れかけています。3.11を風化させてはいけないと強く思いました」「わたしにできることは真実を知り、それを伝えること」と、ちから強いメッセージを届けてくれました。



#### 6 『何様ですか？』姉崎中学校3年生・佐久間 渚 (さくま なぎさ)



暗く、ミステリアスな美少女と、明るく、生徒会長も務める美少女、そしてミステリアス少女に好意を抱く同級生の男子、3人の視点を通して物語が進みます。ミステリアスな少女はじつは悲惨な恐ろしい計画を立てていました。内容を暗示するような不気味な赤い表紙に惹かれて「これ、買う！」と本を手にした佐久間さん。「絶対、ドス黒いじゃないですか」と攻めた発表が続きます。物語の最後は衝撃で本を落としたほど。「衝撃としか言えないくらい衝撃を受けてしまいました」。この本にふさわしい刺激的な発表に、会場が沸きました。

投票の結果、今回のバトルのチャンプ本に選ばれました。

